

# トゥエピラ

令和8年4月8日

札幌市立八条中学校

学校だより第1号

本日から新年度が始まります。

始業式に、学校長、および2・3年生の代表生徒が始業式で伝えてくれた内容です。

## 『夢を語り合える学校』

校長 小林 大介

今年度は、1学年210名、2学年217名、3学年198名の全校生徒625名で八条中学校がスタートします。開校72周年を迎える歴史と伝統ある中学校です。生徒のみなさんの成長と活躍で、八条中学校がさらに飛躍する年にしてほしいと思います。

そこで今年度の八条中学校の全員が目指すものとして「夢を語り合える学校」にしたいと考えました。そのためには皆さん一人一人が夢をもつことが必要となり、それを表現する必要があります。

ところで、皆さんは「夢」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。将来こんな職業に就きたい、世界で活躍できる人になりたい、大金持ちになりたいとか、具体的に思い浮かぶ人がいると思います。あるいは、夢なんかないとか、夢を見付けることが夢だという人もいるかもしれません。実は夢の正体は、自分勝手に自由で人からとやかく言われなくていいものなのです。夢はいくつあってもいい、すぐ変わってもいい、大きい小さい関係なく、可能性を限定する必要もないものです。自分のしたいこと、好きなこと、なりたいもの、あこがれている人のことなどを思って、それを実現するために動こうとする。それが夢なのです。夢は行動の原動力となり、自分を成長させる最も大きなエネルギーとなるのです。

そして、次は「語り合う」ことです。語り合うためには、互いを理解し、相手を認め、受け入れることが必要となります。八条中生らしさの中に、「思いやりの心」あると感じています。思いやりの心をさらに育てるためにも、互いに語り合うことが大切です。皆さんには、夢をもち、それを語りあえる学校となるよう、意識して生活してほしいと思います。その先には「明日もまた学校に行きたい」「学校で学ぶことが楽しい」と本気で思える八条中学校なると信じています。

一人一人が思いっきり自分のよさを伸ばし、夢を語り合える学校になることを願って、今年度1学期始業式のお話といたします。

## 『2年生の反省と3年生に向けて』

3年生 代表

2年生の1年間で、私は勉強・委員会・クラブチームの活動の3つで、自分なりの手応えを掴むことができました。

勉強では、苦手だった理科のテストの点数を20点上げた経験から、「まずはやってみる」というチャレンジ精神の大切さを学びました。自分に合った学習法を家族と考え、それを実践し、真剣に向き合ったことで、自分の中に新しい「視点」や「引き出し」が増えたと感じています。この経験で成長した「諦めない心」を受験勉強の糧にし、学力テストでは全教科8割を取れるよう、全力で取り組んでいきたいです。

委員会活動では、保体学年委員長として学年レクの企画・運営に挑戦しました。初めての経験で不安もありましたが、先生と相談しながら計画を立て、粘り強く準備を進められたことで当日、成功させることができました。集団を動かす難しさを知ると同時に、みんな人を盛り上げる楽しさや役割を全うする喜びを実感しました。3年生でも学年委員長に立候補し、さらによい行事を作りたいと考えています。特に修学旅行の学年レクでは、保体係が担当することになるため、委員長として、また学年全員が心の底から楽しめる時間を作り上げたいです。

クラブチームの活動では、背番号「1」をもらい、エースとして新人戦に挑みました。結果は、リーグ戦5試合すべてに先発しましたが2勝2敗1分け。上位16チームが決勝トーナメントに進出できるどころ、全道17位という結果に終わり、非常に悔しい思いをしました。大会中、コーチから「女子としてではなく、一人の選手として見ている」という期待の言葉をいただいたにもかかわらず、結果で応えられなかったことが何より心残りでした。その悔しさをバネに、「男子と同等ではなく、男子を越える選手になる」と決意し、厳しい冬の練習に打ち込みました。その結果、球速を13キロ向上させ、現在は球速126キロを実現しました。

この経験から、心折れずに努力し続ければ必ず結果はついてくると確信しました。私には、「兵庫県にある日本一強い女子硬式野球の高校へ行き、試合に出て日本一を掴む」という夢があります。その夢を叶えるために、この1年間、勉強も野球も一切妥協せず、さらに自分を磨き続けていきます。

2年生の1年間、もちろん全てが完璧だったわけではありません。計画倒れになった日も、もっとうすれば良かったと反省する瞬間もたくさんありました。私はそれを失敗だとは思っていません。できたことと、できなかったこと、その両方がある今の自分は、『伸びしろしかない』状態だと思っています。2年生の1年間で掴んだ自信を力に変えて、3年生の1年間はさらに高く飛んでみせます。そして「青瞬」の日々を過ごせるようにしたいです。

みなさんも、自分の夢、目標を叶えるために1つでもいいので努力してみてください。そうしたらきっと結果はついてきます。

## 『1年生の振り返りと、2年生に向けての決意』 2年生 代表

皆さんはどんな一年間を過ごせたでしょうか？

私が1年生の間で経験したことは、自分の得意なことと、これから向き合うべき課題を明確にしてくれました。

前期は選挙管理委員会の三役と学級書記を務めました。書記として、委員が内容を理解しやすいよう板書を工夫したり、全校生徒の前で聞き取りやすい発声を心がけたりと、自分なりに「書記としてできること」を丁寧にやってきました。しかし、どこかで「例年通り」の枠を超えられない自分も感じていました。

そこで後期は「挑戦すること」を掲げ、学級代表に挑戦しました。人前で話すことが得意ではない私にとって、それは大きな一歩でした。活動の中では、自分の得意な「ものづくり」を活かして学級の企画、学年の企画に貢献したり、学年協議会でメンバーと互いの短所を長所で補い合い、協調性を持って取り組んだりすることができました。一方で、予想していない事態への臨機応変な対応や、素早い行動力という面では相方に頼ってしまう場面が多く、自分の課題が明確になってきました。

これまでのことから見えてきた私の長所は、板書や制作物など、形にする力です。逆に短所は、一つのことに集中すると客観的な視点を取り入れられなくなってしまうことや、アドリブに弱く柔軟性に欠ける点です。

これらの課題を克服するため、2年生ではさらに一歩踏み出した挑戦をしたいと考えています。学級代表はもちろん学級代表になれなくても、選挙管理委員会の三役や生徒会など、高い行動力が求められる場に立候補するつもりです。また、問題に直面した際は「なぜ」を繰り返して根拠を明確にしながら、順序立てて解決する力を臨機応変に養いたいと思います。他者の意見を柔軟に受け入れ、状況の変化をポジティブに考えられる心の余裕ももちたいです。

2年生では、自意識過剰になりすぎず、失敗を恐れず、何にでも挑戦できるようにポジティブな思考を大切にします。自分の長所を伸ばしながら、弱点からも逃げずに挑戦し続ける、頼られて憧れられる優しい先輩になりたいです。

みなさんも「挑戦」という言葉を頭の片隅に入れておいてはいかがでしょうか。

とても素敵な言葉、ありがとうございます。

皆さんは、どのような新年度をむかえ、どのような年度（一年間）にしたいですか。

ぜひ、皆さんにとっても、良い一年間であることを期待しています。